

内装材の使い方

前田 典昭

住宅の内装材は、それぞれの部位ごとに求められる性能やユーザーの好みの多様性から、活発な商品開発が進められ、広範な製品の中からの選択が可能です。

木質系内装材は、かつての低価格、寡占的な状況から他材料との競争の時代を経て、ユーザーの高級志向や木材の内装材としての機能性の高さの再認識から、現在、需要を伸ばしつつあります。ここでは、木質系内装材を部位別に紹介します。

1 床 材

床材は、畳の使用されることの多い和室を除けば、従来より木質系フローアーが大半を占め、主流はラワン合板表面に道産広葉樹材の突き板を張った複合フローリングです。ダニなどの衛生上の問題から、一時期普及率を高めたカーペットに替わ

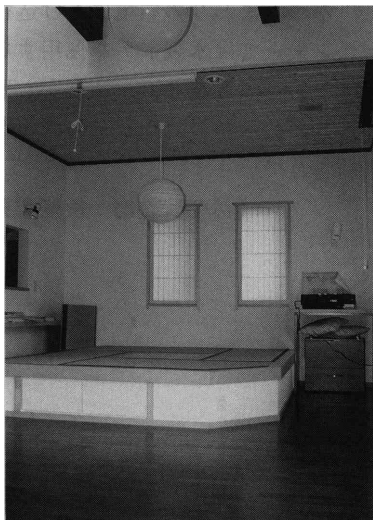


写真1 ナラ複合フローリングの床
(旭栄工務店モデル住宅 - 旭川市)

り再び木質系への転換が著しく進んでいます。

床材は、他の内装材とは異なり人が長時間にわたって直接に触れる部分であるため、居住性、耐久性といった要求される機能を十分に満たす選択が必要です。ナラやカバ等の道産広葉樹の無垢材によるフローリングは、耐久性のほか、多くの優れた性能を持つ床材ですが、資源の枯渇からその数は激減しています。これを室内の一部に使うのも趣があります。

2 階段材

住宅の熱的な環境の大幅な向上により、閉じられた空間に押し込められたり、玄関ホールといった限定された場所にあった階段が、リビングルームなどの居住空間への移動がみられます。これに伴って、高級感のある広葉樹集成材を使用した階段が、意匠性の高いユニット化商品として、開発されています。静的で、平面的な構成の多い内装材の中で、唯一動的な部位として豊かなデザイン性が望まれます。

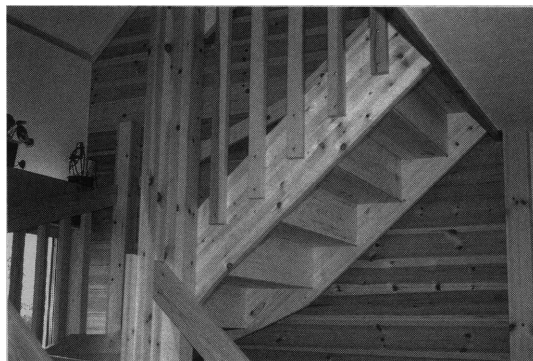


写真2 オウシュウアカマツ集成材による階段
(スウェーデンハウスモデル住宅 - 札幌市)

3 壁材

壁材は、室内にあって最も広い面積を占め、人の目に最も触れやすい場所に位置します。したがって、その部屋の表情を形造る要素が高く、多様化したユーザーの個性に応じた選択が必要です。

木質系材料には、化粧合板や羽目板などの製品がありますが、クロス張りなど白色系の多い壁材



写真3 オウシュウアカマツ羽目板の壁面
(スウェーデンハウスモデル住宅 - 札幌市)

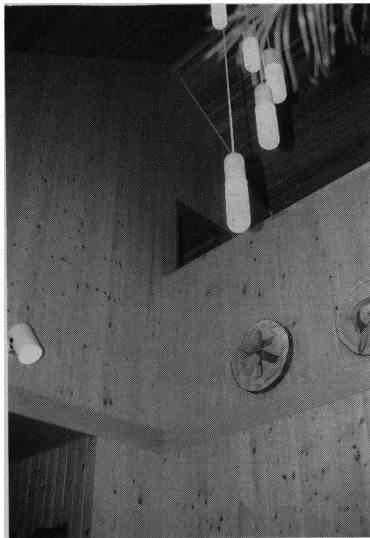


写真4 トドマツ羽目板による吹き抜け
(木の家 - 札幌市)

の中にあって、木目や節など自然の味わいを活かした個性材料として、また調湿能力や断熱性をもつ機能材料として位置付けられます。

4 天井材

天井は、壁や床に比較すると機能として求められる要素は多くありません。また、家具などを配置した後も広い面を恒久的に現すとともに、頭上に位置するため軽やかな印象が必要とされます。

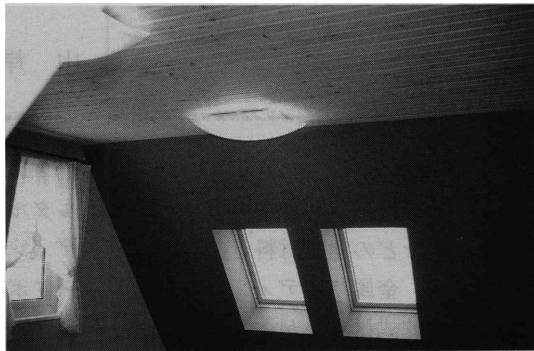


写真5 トドマツ羽目板の天井
(ヤマリンハウスモデル住宅 - 帯広市)



写真6 カラマツ羽目板による傾斜天井
(木の家 - 札幌市)

和室を除けばクロス張りとする例が多いのですが、ある程度重厚さをもつ木質系ボードの使用を望まれる向きには、吹き抜け部分や高さのある傾斜天井など余裕のある空間内で圧迫感の少ない構成が望まれます。

(林産試験場 構造性能科)